

## 第4回 塩竈市長期総合計画審議会の概要

日 時 平成21年11月17日(火) 13:00~15:00  
場 所 塩竈市役所3階 北側委員会室  
出席委員 大滝委員、齋藤(善)委員、水野委員、丹野委員、太田委員、馬場委員、小野委員、今野委員、  
北村委員、板橋委員、齋藤(廣)委員、石田委員、阿部(邦)委員、庄子委員、松戸委員、柴田委員  
欠席委員 9名  
塩 竈 市 市長、各部長  
事 務 局 総務部政策課  
議 長 大滝会長

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶

### 3. 報告事項

#### 【市民意向調査について】

##### ・交通の便について

(委 員) 100円バスや市中心部から短時間大抵のところに行けるので不便は感じておらず、市の交通の便が悪いとの意見に違和感があります。一方で観光客用の駐車場の不足や道路標識などの課題はあります。

(委 員) 駅が4つある便利さと、狭い道路や一方通行などの良い悪い両方の点があります。

(委 員) 駅から離れるほど利便性が悪化するので、居住地域により幅があると考えます。100円バスの本数、仙台市や仙台港方面のバスは無く、利府町へのバスも少なく、高速道路へのアクセスが悪いなどの課題があります。市内に入ると道路事情が悪く、一方通行と信号機も多いので利便性が悪いという意見と考えます。

(委 員) 交通の便について、CO2排出削減の観点から「歩くまち」を次期計画に取り入れて、バリアフリーの道を構築していくことも考えられます。

(委 員) 交通の利便性について、100円バスは利用者が100円の料金負担でその他に30円分を市で負担しているということですが、財政の許す限りルートの変更や本数を増やすことを考えて欲しい。

(事務局) 他の市町の利便性が高まっていることからの比較と想定されます。自由記載では道路事情、狭い道や一方通行や信号機が多く表示が分かりにくいことが読み取れます。昨年10月から新しい路線バスを走らせていますが、バスの本数増加の要望があります。公共交通機関より道路網が課題と考えられます。

##### ・市民ニーズ

(委 員) 市民のニーズはある意味「わがまま」とも言えます。意向調査では、10年前と同じことを市民に言われていると考えますので、この間の取り組みが不足していたのでは。

(会 長) 意向調査は平均値な答えであります。その声に対し積極的にどう応えるべきか、様々な視点、取り組み、姿勢を見せていくのか検討の要素がたくさんあります。

(委 員) 自由記載で市職員や商売の対応が悪い、食べ物が高くて観光客が気の毒という指摘もありますが、以前と同じなのは、調査の数値から語るよりも自由意見から取り上げて、課題を構築していくべきです。

(委 員) アンケートはあまりあてにならないと思う。話がまとまらなくなってくる。意見を聞いていくとまとまらないのではないかと、市にとって一番大事なものは人の問題と認識しているので、どのように構築していくのか。

(会 長) 「観光」は市民の期待も高いが、相応しい備えがあるというギャップがあります。これは市民活動に参加したい人の数と参加している人の中にもあります。この課題をうまく進め、観光と市民参加の話は両立できます。二つを分けて、課題を根底から考えていきます。自由記載は、貴重なデータであることから、分析し時間をかけて議論していきます。

##### ・市民参加について

(委 員) 市民意向調査で「まちづくりに積極的に参加したい」「出来るだけ参加していきたい」の割合が多いのが信じがたい。「時間がない」「チャンスがない」などの理由が付加されていると思われます。市民意向調査でまちづくり情報を積極的に受け入れる人が半数以上いるが、十分にまちづくりの参加になる。「ごみの分類をはじめ

市民の役割を実践する」に関しては有望で義務と責任を果たそうとしています。

#### 【市民懇談会について】

##### 「活力づくり分科会」

様々な意見が多く出ており、方向性を定めるのが大変で4つの項目に構築することができました。多様な人材が集まりましたので、多方面からの非常にいい意見もありました。活力づくりを優先するというで次回の懇談会で取り組み方針を決めていきます。

##### 「ふくしづくり分科会」

塩竈市は高齢者や福祉サービスについては充足しています。しかし、制度の隙間にある方や一人暮らしの高齢者などの意見を反映していくべきと考えます。そういう方に手を差し伸べるために、塩竈市独自の福祉のまちづくりを活かしていきたい、今後どういった方策を具体的に盛り込めるかを深めていきます。

##### 「ひとづくり分科会」

活発な意見をいただいております、課題を絞り込みました。その中で、キーワードはコミュニティであります。これまでの生涯学習活動については、市民の評価は高い。システムは構築できたが、これからどこまで広げ深めていくか、踏み込んでいきます。先ほど意見があったように市民はわがままとも言えますので、これからを担う子供たちを中心に権利と義務と責任をしっかりと支えていく教育の場も必要です。

#### 【コミュニティについて】

(委員) コミュニティの大切さ、人と人との関わりを育むことが鍵です。ひとを育むための施策を形作れるものが出来ると考えます。20～40代が参加しやすい環境づくりを課題に出しています。仕事や子育て世代は参加することが困難であり、どのように参加を促し意欲をもたせるかが非常に大きな課題になります。

(委員) うるおいづくり分科会の中で「地区の連携が必要」とありますが、市内では各地区の連絡協議会があり連携をとっています。町内会をうまく活用とありますが、PRしても若年層に参加していただくことが課題です。しかし、町内会活動は防犯協会や連絡協議会など積極的に活動しています。現在、各地区と協議をしながら、防災連絡協議会を構築する作業をしています。

(委員) 町内会の広報活動で若年層にアイデアを聞いていますが、お膳立てしないと出来ない部分があります。

モラルの低下が見受けられることから、親と子のふれあいや絆が薄れているところに原因があるのではと考えますので、今後の啓蒙活動が課題です。

(委員) 自分も町内会活動などにあまり参加していなかったもので、反省しています。今の時代にあったやり方でやっていきたいと考えます。

(委員) 同居をしても税制の優遇がないということもあるのでは。親と一緒に住まない子供でも相続権は同じである。子育てでも優位性がなく、同居しなくなっている。家業を継ぐという意味もなくなっている。

(会長) 若年層をコミュニティの中に受身として参加してもらうのではなく、彼らが次の世代を作っていくから、どのように取り組んでいったらいいのか。分科会だけでなく全体の課題なので、その起点からも検討するのが良いと考えます。産業や活力とも関連する話なので、分科会を越えていろいろな情報、知恵を出し合っていくことも大切です。

#### 4. 審議事項

##### 【次期計画の主要課題について】

(委員) 耳障りがいい言葉が並んでいるだけで中身が見えなく、イメージが湧かない。内容を思い切って変革していくことが大事です。

(委員) 主要課題については、中間的な抽象論から入ってから具体的な協議に入れば良いと考えます。

(委員) 問題点の掘り下げが不十分である。今まではこのような計画でよかったのですが、時代が変わってきているので、出来ないものも出てくると考えますので、仕分けが必要です。

##### 【人口について】

(委員) 人口問題において、塩竈市を選んでもらうためのイメージ政策が必要です。塩竈市のシンボルを何に見るか、人によっては神社や魚市場などです。

(委員) 人口減少の中で塩竈市だけが增加することは困難です。また、「住みやすいまちづくり」と「塩竈らしいまちづくり」は、両方成り立たないと考えます。住みやすいまちは国民の共通のイメージであり、そのとおりの住宅団地を造成すれば、既に個性的なまちでなくなります。それが暮らしやすいまちですので、「塩竈らしさ」を打ち出さない方向も考えられます。

一方で塩竈らしい景観を残す地区は「暮らしやすくないまち」ということです。しかし、それでいいという人もいるかもしれません。住みやすいまちと個性的なまちは、双方を求めては中途半端になる可能性があります。

### 【「塩竈らしさ」について】

(委員) 「塩竈らしい」とは何か、どのようなイメージが分科会で議論されているのでしょうか。

(委員) 「塩竈らしさ」とは何なのか。不便でも良いと思っている人を取りこんでいくべきで、まちが好きだから住んでいる人を育てていませんでした。

(委員) 「塩竈らしさ」は人や立場により、それぞれが違う意見です。転居する人もいますが、一方で駅が多いので転入してきた人もいます。それぞれの考え方が違うので、良いところを強調していくべきです。

(委員) 塩竈市は介護関連が充実しているなど全国トップレベルであります。良いところを伸ばしていくことが大事です。それが「塩竈らしさ」につながっていくと議論しています。人口減少社会の中では、塩竈市が選択されない部分も出てきますが、市の説明が重要で、説明が無いから不満ということも考えられます。

(委員) 「塩竈らしさ」の明確な姿が見えないので、特徴をはっきり出すべきです。例えば、小中学生の障害者への思いやり体験、体験学習などをしっかり打ち出していくなどが考えられます。

### 【合併について】

(委員) 市町村合併は目的ではなく手段であり、権限の委譲と中央政権の関与の廃止と財源の移譲と市町村合併のこの4つがひとつの手段です。今の生活や道路の問題などを考えると市内の面積は限界に達しています。市町村合併を具体的に課題として取り上げた方が良く考えますので、審議会の中で取りまとめるべきです。

(委員) 住みやすいまちづくりとして、人とのつながりを強化していく事業を追加していくべきです。広域連携により住みやすいまちを構築していくことも大事です。

例えば、600人クラスのイベントホールの要望の記載がありますが、多賀城市などにあります。すべての住民が望むことを単体の市だけで完成する必要はないと考えます。広域の中で考えていくことを主要課題として含めるべきです。

### 【計画全般について】

(委員) 現計画のスローガン「海・食・人の活きるまち」を議論した際に、「緑」という意見もあったので、今考えればそれも盛り込めば良かったです。

また、権利と義務と責任は必要と考えます。この言葉をスローガンに入れる都市は少ないことから、取り入れる価値はあると考えます。人は権利だけを主張しがちで、義務や責任を果たしていない場合も多い。楽な方を選ぶことから、自分の責任を果たすなどの意識を持った人が増えれば、まちは住みやすくなると考えます。義務と責任をきちんと教育していくべきです。

(委員) 水産関係や港で良い大人の手本があったが、これは地域的なものであり「塩竈らしい」教育ということを出していただきたい。

(委員) 小学校の総合学習の中で市役所、消防署の体験学習を行っている。中学校も「塩竈の歴史」という冊子で学習をしています。地域の文化を学ぶということは大事です。

(委員) 主要課題から骨子を作成し、委員の皆さんの承諾をいただき市民意向調査や市民懇談会の意見を取り入れて目標、課題を入れてやれば十分市民の意見が盛り込まれていると考えます。

会長が以前話した「わかりやすい市民の声」や「生の言葉」を計画に盛り込み、市民が読んで面白い計画ということが重要です。箇条書的な部分をまとめてわかりやすく、イラストや写真を入れて計画を立てる形で策定していくべきです。

### 【まとめ】

(会長) 5つの主要課題は、塩竈市に限らずどのまちでも挙げられるものです。審議会の中でも「特長」と「らしさ」が必要だという議論があります。課題を共通点で捉え、それに対する回答の中に塩竈市の今まで取り組んできた資産、経験、持っているポテンシャルを生かす取り組みをしていくことが大事です。柱の中に「塩竈らし

さ」を入れいくのかは、もう少し検討が必要です。課題の整理や提案の仕方については皆さんと一緒に検討していくということが大切です。

市民懇談会は、課題に対して積極的な提案があって良いと考えています。地域資源や塩竈市のもつうおい、趣と輪郭、まちづくりの独自性、ひとづくりの提案は積極的に取り入れ伸ばしていくことが重要です。

また、市民力の強化だけでなく、行政の経営力の強化の観点、明確に言うと「市役所の体質の改善」を別の項目に立てるべきです。市役所の理想を変えていくのを大きな課題のひとつとして掲げるべきです。財政が厳しきや行財政改革などの一般的な話ではなく、窓口の対応や職員の資質の問題も含めて、行政サイドも頑張ることを課題の柱の中に入れての方が良いです。

ここに出ているのは課題の整理なので共通的な項目を挙げていくということになりがちです。複数ある課題の柱の何を目標にやっていくのか。10年後の塩竈市がどうなるべきか、どういう方向性なのか、今後のまちの目標、イメージをしっかりと作るために20代から40代までの人たちの意見もくみ上げてくることも必要です。

#### 【その他】

(委員) 北浜沢乙線は立派な道路なので、これからは花を植える仕組みづくりを構築してほしい。気仙沼市の国道の歩道には花壇があり綺麗なため、そのようなまちづくりを進めて欲しい。

(本部長) 花壇や道路整備にあたっては、赤坂交差点や北浜沢乙線、下馬春日線などできるだけ様々に取り組んでいます。環境がよくなるように、植栽については意見を聞きながら工夫してきます。

(委員) 健康推進員は一生懸命やっていますが、参加者や若い人が少なく協力者がいないことで悩んでいる人が多いです。長期間続けている人は町内会の協力を得られている。例えば、ある地区は連携がとれているが、別の地域では協力が少なく推進委員が次々と変わる現状があります。これからお互いに議論を重ねてよい審議をしていければと考えます。

(委員) 市民力の強化について、協力する意思のある市民をどのように活用していくのか。様々な団体がありイベントなど懸命に取り組んでいるが、後継者や人材不足などの課題があります。ボランティア活用ということで、ホームページなどで公募をかけて、イベントを成功させていく方策を構築できればと考えます。

(委員) 広報については、市民に協力してもらいたいこと重要事項はチラシの配布が有利と考えます。冊子よりチラシの場合の方が、重要事項として市民が認識するからです。

(委員) 市役所庁舎も建て替えた方がインパクトもありモチベーションも上がりますので、実施する方向で。

(委員) 人が変わらなければ、まちも変わらない。そのような教育を学校からしていくことも大切です。

(委員) 市職員の対応が悪いという意見もあったが、努力をして変わってきている。職員個々の対応もあるので、すべて満足するにはもう少し時間がかかると考えます。

#### (事務局)

次回は12月1日(火)13:00からです。場所は後ほど連絡します。